



TENMA

Happy life with **TENMA**

2022年3月期 第2四半期
決算説明会資料

2021年12月10日

天馬株式会社
東証第一部：7958

| | |
|---------------------------|-------------|
| 企業概要 | P 2 |
| 2022年3月期 第2四半期決算概要 | P 13 |
| 2022年3月期 業績予想 | P 20 |
| トピックス | P 24 |



企業概要

2021年9月30日現在

| | |
|---------|---------------------------------------|
| 会 社 名 | 天馬株式会社 (TENMA CORPORATION) |
| 創 立 | 1949年8月26日 |
| 本 社 | 東京都北区赤羽一丁目63番6号 |
| 資 本 金 | 19,225百万円 |
| 代 表 者 | 代表取締役社長 廣野 裕彦 |
| 従 業 員 数 | 連結：7,535名 / 単体：641名 (2021年3月31日現在) |
| 売 上 高 | 連結：73,639百万円 / 単体22,852百万円 (2021年3月期) |

| 年月 | 事項 |
|----------|---|
| 1949年8月 | 東京都荒川区に太洋商事株式会社を設立、日用品雑貨、ゴム製履物類の製造販売を開始 |
| 1953年10月 | 欧米のプラスチック業界の発展に着目、プラスチック製品の射出成形技術の研究開発を開始 |
| 1954年7月 | 商号を太洋商事株式会社から天馬合成樹脂株式会社に変更 |
| 1957年4月 | 定款目的を変更し、プラスチック製品製造に専業 |
| 1961年9月 | 埼玉県川口市に川口工場を新設、射出成形機30台を設置 |
| 1964年1月 | 東京オリンピック開催に伴う都市美化運動の一助として「ポリラッシュシリーズ」を開発 |
| 1966年10月 | 西ドイツのシュケン社の技術を導入し、ビールコンテナの生産を開始 |
| 1967年10月 | 千葉県野田市中里工業団地内に野田工場を新設(後に川口工場を統合) 以降、現在の6工場体制に至る |
| 1971年5月 | 大阪市西区に大阪営業所を開設 以降、新設・閉鎖を経て、現在の3営業所体制に至る |
| 1987年4月 | 商号を天馬株式会社に変更 |
| 1988年8月 | 東京証券取引所市場第二部に上場(1991年4月に市場第一部に指定替え) |
| 1988年8月 | 英国、スコットランドに現法設立(後に閉鎖)し、海外展開を開始 |
| 1992年12月 | 中国、広東省中山市に現法設立(後に現在の連結子会社である天馬中山が吸収合併)し、アジア初進出 |
| 1993年3月 | 本社ビル完成に伴い、東京都北区赤羽に移転 |
| 2007年11月 | ベトナム、バクニン省クエポに現法設立 |
| 2009年6月 | 同業者である株式会社タクミック・エスピーの全株式を取得 これを機に当社の海外展開が拡大し、タイ、インドネシアへの進出に繋がる |

生産拠点は国内6工場、海外4カ国/11工場

900台以上の成形機を有し、国内外で幅広い製品の生産に対応可能

【海外】



【国内】



プラスチック成形加工メーカー

自社製品事業



受託製品事業

- 家庭用品
 - ・収納ケース
 - ・キッチン用品
 - ・サニタリー など

両輪とする希少な存在

- OA機器部品
- 家電機器部品
- 車両部品
- メディアケース など

カテゴリトップの
コンシューマーブランド企業

Fits累計販売数：1億個超



アジアの成長市場において
グローバル企業を顧客とする受託製造会社

年平均成長率：5.9%（過去10年度）



地域別の事業概要①

【日本】

- 売上の約7割が自社製品事業（HW）であり、収納用品分野では国内シェア首位
- 受託製造は、「エネルギー」「インフラ」などの新領域開拓を推進
- 本社技術スタッフ・営業スタッフによる海外事業のサポート体制を構築



家庭用蓄電池の筐体

収納衣装ケース



地域別の事業概要②

【中国】

- 上海・深圳・中山の3拠点体制
- OAの生産がアセアンにシフトする中、自社製品事業（HW）の業容拡大を推進中
- 受託製品事業においても、ゲーミング・キーボードなど新しい分野の商材を開拓中



OA



自社製品



キーボード（新規）



【タイ】

- 今後の成長が見込まれる空調メーカーが集積しており、エアコンの成形から組立までをトータルで受注
- OA事業も中国からの生産シフトの流れを受けて事業拡大中
- 将来の業容拡大を見据え、主力工場を増設中（2022/1月完工予定）



【ベトナム】

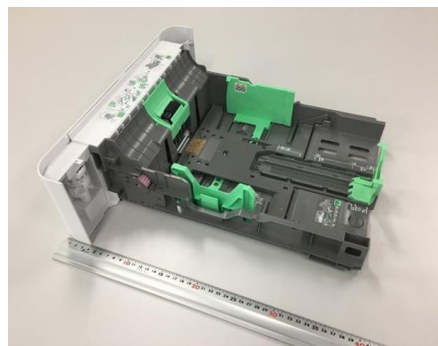
- 北部に2拠点、南部に1拠点を構え、北部ではOAと二輪車、南部では家電を中心に事業展開
- 足元ではコロナ禍の影響が長引いているが、中長期的には成長トレンドが続く市場と想定
- 引き続き、重点投資地域として位置付け、積極的な事業展開を進める



二輪



家電



OA



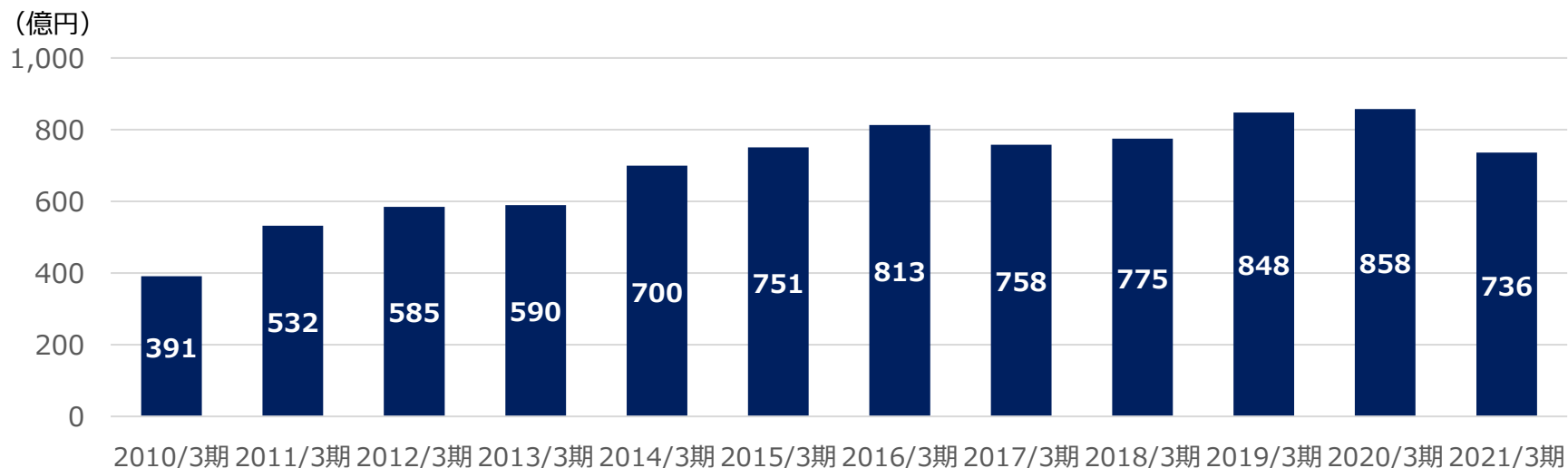
【インドネシア】

- 当社の車両事業の中心地。2016年創業のスルヤチプタ工場では、バンパー生産が可能な大型成形機と塗装ラインを有する
- チカラン工場ではOAの受託製造が堅調
- インドネシアにおける自社製品事業（HW）を本格展開する事業計画を決定し準備中

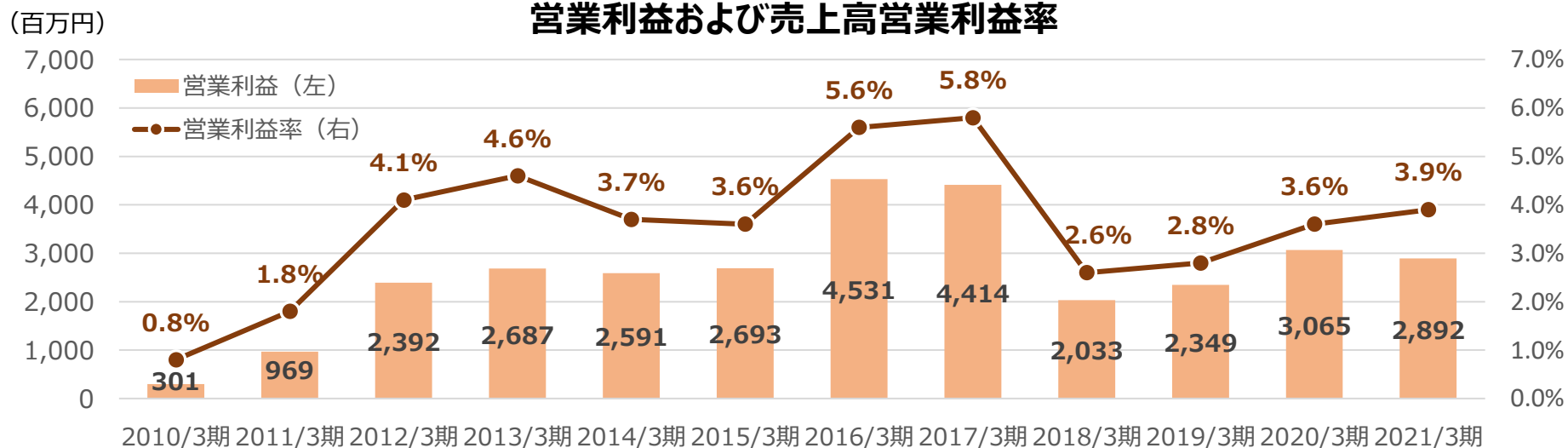


業績推移（過去12カ年）

売上高



営業利益および売上高営業利益率





2022年3月期 第2四半期決算概要

- 全体では前年度実績対比で増収増益、計画対比で未達
 自社製品事業は販売数量減少、原材料価格高騰により計画対比で未達
 受託製品事業は原材料価格高騰の売価反映もあり、売上は概ね計画並みも、コロナ禍や半導体不足等の影響で工場稼働率が低下し減益

(百万円)

| | 2021/3期 | 2022/3期 | | | | | |
|----------------------|---------|---------|-------|--------|----------|---------|--------|
| | 2Q累計実績 | 2Q累計実績 | 前期比 | 前期比達成率 | 2Q累計公表計画 | 計画比 | 計画比達成率 |
| 売上高 | 34,995 | 38,895 | 3,900 | 111.1% | 40,000 | △ 1,105 | 97.2% |
| 売上総利益 | 6,520 | 6,393 | △ 127 | 98.1% | — | — | — |
| 営業利益 | 779 | 878 | 99 | 112.7% | 1,400 | △ 522 | 62.7% |
| 経常利益 | 939 | 1,143 | 204 | 121.7% | 1,600 | △ 457 | 71.4% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 284 | 569 | 285 | 200.4% | 1,200 | △ 631 | 47.4% |

注) 公表計画は2021/10/8付修正発表前の数値を採用。

2022/3期は収益認識基準適用後、2021/3期は従来基準の数値を採用。従って前期比は参考値。

尚、基準適用に係る影響は売上高及び営業利益△63百万円、経常利益及び当期純利益△25百万円。

【地域別】

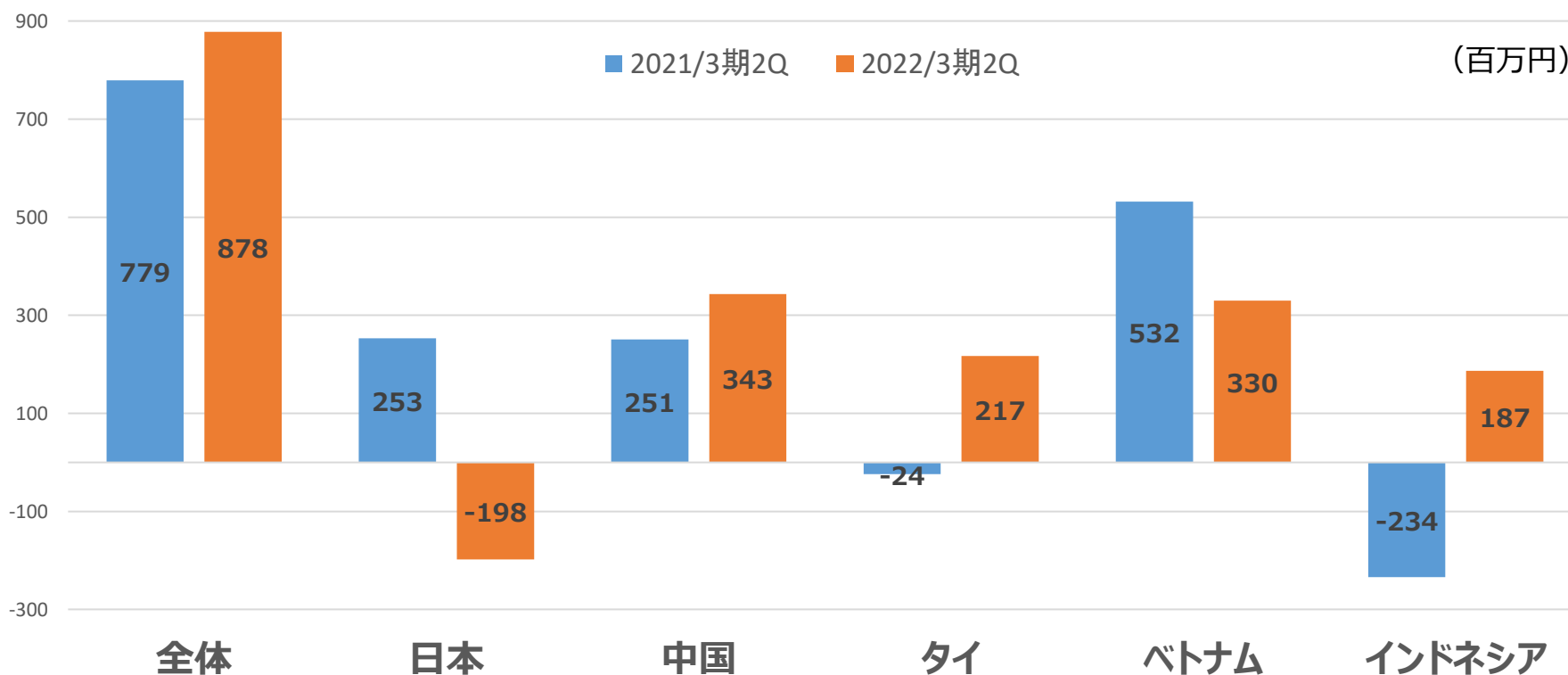
- 日本：巣ごもり需要の反動減もあり、自社製品事業が落ち込み
- 中国：受託製品事業の内、OAが大幅増加
- 東南アジア：OA、家電、車両等、幅広い分野で増加

(百万円)

| | 2021/3期 2Q累計 | | 2022/3期 2Q累計 | | 前期比 | |
|--------|-----------------|-------|-----------------|-------|---------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 達成率 |
| 日本 | 11,342 | 32.4% | 10,191 | 26.2% | △ 1,151 | 89.9% |
| 中国 | 8,471 | 24.2% | 9,441 | 24.3% | 970 | 111.5% |
| 東南アジア | 15,182 | 43.4% | 19,263 | 49.5% | 4,081 | 126.9% |
| タイ | 6,101 | 17.4% | 8,408 | 21.6% | 2,307 | 137.8% |
| ベトナム | 7,375 | 21.1% | 8,166 | 21.0% | 791 | 110.7% |
| インドネシア | 1,706 | 4.9% | 2,689 | 6.9% | 983 | 157.6% |

セグメント別営業利益

- 日本：自社製品事業の売上減少に加え、原材料価格高騰により赤字計上
- 中国：前年度は一時的な工場操業停止もあったが、今年度は順調に回復
- タイ・インドネシア：前年度に比べ、コロナ禍の影響が緩和され、売上増加もあり黒字回復
- ベトナム：コロナ禍及び半導体不足等の影響が大きく、工場稼働率低下等により、収益性低下



(百万円)

| | 2021/3月末 | | 2021/9月末 | | | |
|----------|----------|--------|----------|--------|-------|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減 | 主な増減要因 |
| 流動資産 | 54,511 | 59.0% | 54,505 | 58.5% | △ 6 | 受取手形及び売掛金△2,301、商品及び製品523 仕掛品325、原材料及び貯蔵品1,867 |
| 固定資産 | 37,876 | 41.0% | 38,612 | 41.5% | 736 | 機械装置及び運搬具266、建設仮勘定233 投資有価証券139 |
| 資産合計 | 92,387 | 100.0% | 93,117 | 100.0% | 730 | - |
| 流動負債 | 14,297 | 15.5% | 13,822 | 14.8% | △ 475 | 支払手形及び買掛金149、未払金△225 未払費用△186 |
| 固定負債 | 5,195 | 5.6% | 5,397 | 5.8% | 202 | リース債務76、繰延税金負債76 |
| 負債合計 | 19,491 | 21.1% | 19,220 | 20.6% | △ 271 | - |
| 純資産合計 | 72,895 | 78.9% | 73,897 | 79.4% | 1,002 | 自己株式(控除項目)705、為替換算調整勘定2,033 |
| 負債・純資産合計 | 92,387 | 100.0% | 93,117 | 100.0% | 730 | - |

(百万円)

| | 2021/3期 2Q累計 | 2022/3期 2Q累計 | 前期比 | 今期の発生要因 (増減はCFベースで表記) |
|----------------------|-----------------|-----------------|---------|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,047 | 2,287 | △ 1,760 | 税金等調整前四半期純利益1,098 減価償却費2,045、法人税等支払△477 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 759 | △ 4,170 | △ 4,929 | 定期預金の増加△2,354 (海外現法が主) 有形固定資産の取得△1,833 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,060 | △ 1,867 | 192 | 自己株式の取得△705、配当金支払△927 |
| 現金及び現金同等物に係る 換算差額 | △ 308 | 641 | 948 | - |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 12,721 | 16,106 | 3,385 | - |
| 現金及び現金同等物の四半期末 残高 | 15,160 | 12,996 | △ 2,164 | - |

- 更新投資は減価償却費範囲内で継続的に実施
- 2019/3期にベトナム、2020/3期、2021/3期に滋賀で新工場等建設
- 第3次中期経営計画に沿って設備投資を実行中

(百万円)

| | | 2019/3期 通期 | 2020/3期 通期 | 2021/3期 通期 | 2022/3期 2Q累計 |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 設 備 投 資 合 計 | | 7,039 | 4,264 | 3,625 | 1,560 |
| | 日 本 | 2,329 | 2,181 | 1,903 | 563 |
| | 中 国 | 690 | 527 | 235 | 168 |
| | 東 南 ア ジ ア | 4,020 | 1,375 | 1,373 | 828 |
| | 全 社 資 産 又 は 消 去 | — | 181 | 114 | — |
| 減 価 償 却 費 | | 3,561 | 3,813 | 3,913 | 2,045 |



2022年3月期 業績予想

2022年3月期 通期見通し

- 2021/11/5付で業績下方修正を公表
- 売上高は自社製品事業にて巣ごもり需要の反動減の影響が長引く一方、受託製品事業にて原材料価格高騰分の売価反映や円安に伴う円換算金額の増加もあり、全体では当初計画を据え置き、前年度比増収見込み
- 利益面は自社製品事業にて原材料価格高騰、受託製品事業にて取引先での生産調整等により、当社工場稼働率低下等、非効率な生産体制を余儀なくされており、前年度比減益見込み

(百万円)

| | 2021/3期 通期 (実績) | 2022/3期 通期 (予想) | 前期比 | |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|---------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 73,639 | 81,000 | 7,361 | 10.0% |
| 日本 | 23,075 | 20,300 | △ 2,775 | -12.0% |
| 中国 | 17,524 | 21,200 | 3,676 | 21.0% |
| 東南アジア | 33,040 | 39,500 | 6,460 | 19.6% |
| タイ | 12,750 | 17,000 | 4,250 | 33.3% |
| 베트남 | 16,616 | 17,600 | 984 | 5.9% |
| インドネシア | 3,674 | 4,900 | 1,226 | 33.4% |
| 営業利益 | 2,892 | 1,800 | △ 1,092 | -37.8% |
| 経常利益 | 2,919 | 2,150 | △ 769 | -26.3% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 3,006 | 1,500 | △ 1,506 | -50.1% |

注) 通期予想は2021/11/5付修正発表後の数値を採用。

2022/3期は収益認識基準適用後、2021/3期は従来基準の数値を採用。従って前期比は参考値。

尚、基準適用に係る影響見通しは売上高及び営業利益△100百万円程度、経常利益及び当期純利益△25百万円程度を見込む。

新型コロナウイルスの影響と今後の見通し

(2021年11月15日時点)

● コロナ等の影響の収束を前提として、来期は第3次中期経営計画線上の業績への回復を見込む

【日本】 ①△12.0% ②10,191 ③10,109 ④△82

・足許では新規感染者数が低水準で推移するも、巣ごもり需要の反動減の影響が長期化し、ハウスウエア製品の需要は伸びを欠き、下期は上期並みの売上を予想。下期も原材料価格高騰による収益性低下が続く見込みながら、価格改定の浸透による改善も期待できる。

【中国】 ①+21.0% ②9,441 ③11,759 ④+2,318

・前年度は一時的な工場稼働停止もあったが、足許の影響は僅少。下期はOAの生産がベトナムから回帰する動きがあり、通期では売上の上振れ余地あり。また利益面も好調で、当面は安定した業績を見込む。

【タイ】 ①+33.3% ②8,408 ③8,592 ④+184

・前年度は売上等に多大な影響があったが、今年度はこれまで大きな混乱なし。売上自体は原材料価格高騰分の売価反映等もあり、安定的な増収を見込む。但し半導体部品の供給問題等による非効率な生産体制を余儀なくされ、収益性は低下。当面は不安定な操業が続く見込みであるが、エアコン等の需要は根強い。

【ベトナム】 ①+5.9% ②8,166 ③9,434 ④+1,268

・本年8～9月にかけて、一時的に工場稼働停止。非常に厳しい操業制限が課されたが、徐々に緩和に向かいつつあり、またOAの挽回生産等もあり、売上は増加基調。但し工場の低稼働期間も長く、収益性は低下。未だ取引先での突発的な生産停止等があり、本格的な回復には時間を要する見込みであるが、市場としてのポテンシャルは高く、成長トレンドを見込む。

【インドネシア】 ①+33.4% ②2,689 ③2,211 ④△478

・新規感染者数は減少しており、車両及びOAの挽回生産等により、上期は大幅増収で、利益面も好調。半導体不足が深刻で、下期は取引先での車両の減産影響等により、上期対比では減収見込みながら、OAは底堅い。

①通期売上高予想 前年度比増減率 ②売上高 上期実績 ③売上高 下期予想 ④上期/下期増減額 (百万円)

- 株主還元策として自己株式取得を継続中
2021/8月：総額20億円(上限750千株)の取得を決議、
2021/10月：1,500千株の消却を実施
- 2022/3期の年間配当は80円を維持する予定
- ROE目標：2024/3期末 4.6%、2031/3期末：9.0%

| | | 2017/3期 通期実績 | 2018/3期 通期実績 | 2019/3期 通期実績 | 2020/3期 通期実績 | 2021/3期 通期実績 |
|---------------|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1株当たり配当額 | (円) | 40 | 50 | 80 | 80 | 80 |
| 配当性向 | (%) | 26.0% | 63.5% | 85.7% | 77.1% | 63.0% |
| 純資産配当率 (DOE) | (%) | 1.3% | 1.6% | 2.6% | 2.6% | 2.6% |
| 総還元性向 | (%) | 26.0% | 63.7% | 86.0% | 77.3% | 128.8% |
| ROE (株主資本利益率) | (%) | 5.0% | 2.5% | 3.0% | 3.4% | 4.1% |



トピックス

IFFT interiorlifestyle living

開催期間・会場
2021年10月18日・20日 東京ビックサイト

日本を代表する家具産地を中心にライフスタイル商材が集結するインテリア・デザイン見本市

インテリア・デザイン見本市 東京国際家具見本市（IFFT）を前身とするIFFT/インテリア ライフスタイル リビング。日本各地の家具産地をはじめ、テキスタイル、テーブルウェア、デザイン雑貨、生活用品など、空間全体を構成する商材が国内外より集まることから、小売だけでなく、設計・建築・デザイン事務所、デザイナー、ホテル、レストランなどのコンラクトに関わる来場者が多いことが特長です。

出典:© メッセフランクフルト ジャパン(株)

出展テーマ

『 #樹脂と暮らす 』

これまででも、これからも。暮らしを支える製品をお届けします。

創業以来、私たちが作ってきた樹脂製品には皆様に長く使い続けていただいている丈夫なものはいくつもあります。それは、発売から数十年に渡り、私たちの製品が皆様の暮らしに寄り添い支持され続けてきた証でありメーカーとしての「使命」と、ゆるぎない「誇り」になっています。

「#樹脂と暮らす」では

使い捨てられる樹脂が環境に悪影響を与えると言われるなか「樹脂が長く暮らしに寄り添い続けられること」を提案しますメーカーとしての「使命」と、ゆるぎない「誇り」になっています。

暮らしになじむ3つのシーン。

- 自分らしく「整える」 - - 好きを「集める」 - - もしもに「備える」 -

丈夫で長く使える、こどもでも運べる軽さ、洗って清潔に使える、積み重ねしやすい、透明は中が見えて便利。樹脂だからこそその良さが、私たちの暮らしの中で生きてきます。

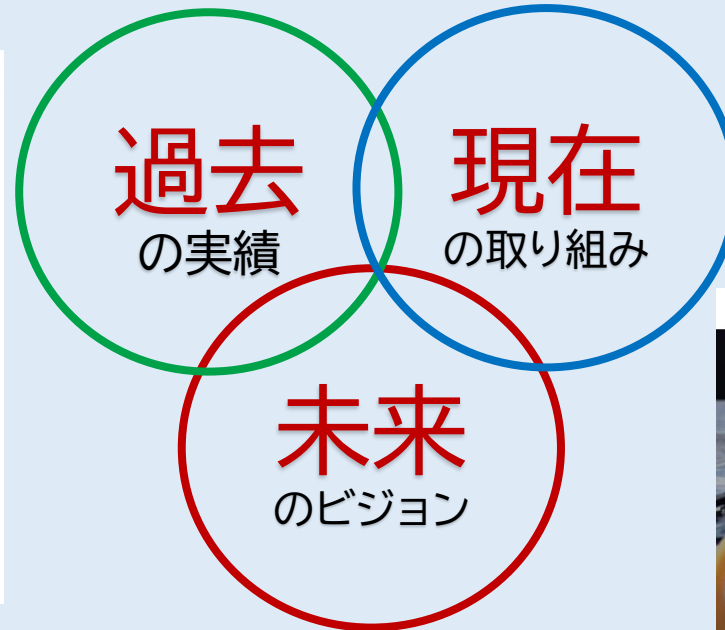
暮らしに長く寄り添い続けてほしい、タフな製品たち。



自然の色をお手本にした暮らしになじむ3色のアースカラー。


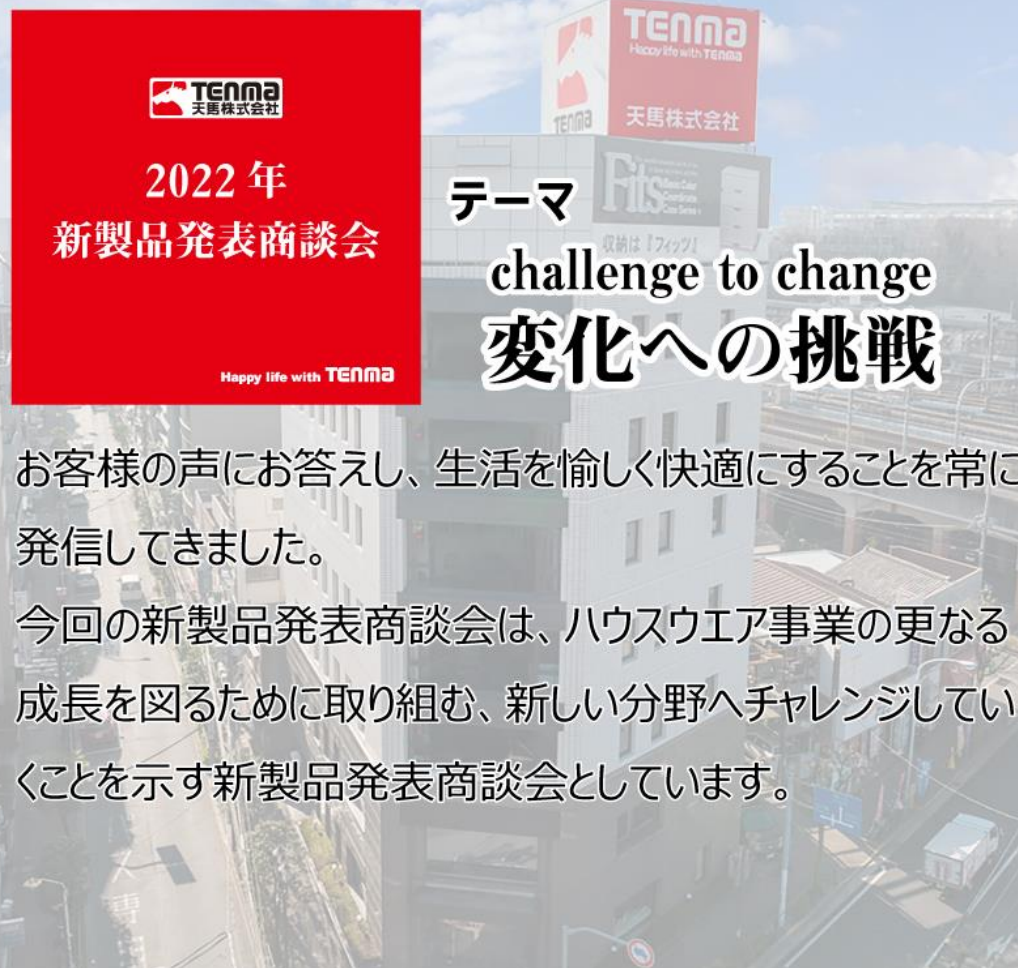
earth gray (アースグレー) earth green (アースグリーン) earth blue (アースブルー)





- ◆ 天馬75周年に向けてレイアウトや機能性を刷新
- ◆ 「Happy Life with TENMA」の世界観を伝える、信頼・安心を感じさせるデザインへ
- ◆ ターゲットユーザーを考慮した設計で、さまざまなデバイスでの閲覧を考慮
- ◆ 当社のビジョンや取り組み、社員の声などをリアルタイムで発信
- ◆ **IRコンテンツを充実させ、株主・投資家等の皆様への判断材料の提供を強化**

■ 2022年、3年ぶりに開催される新製品発表商談会



2022年
新製品発表商談会

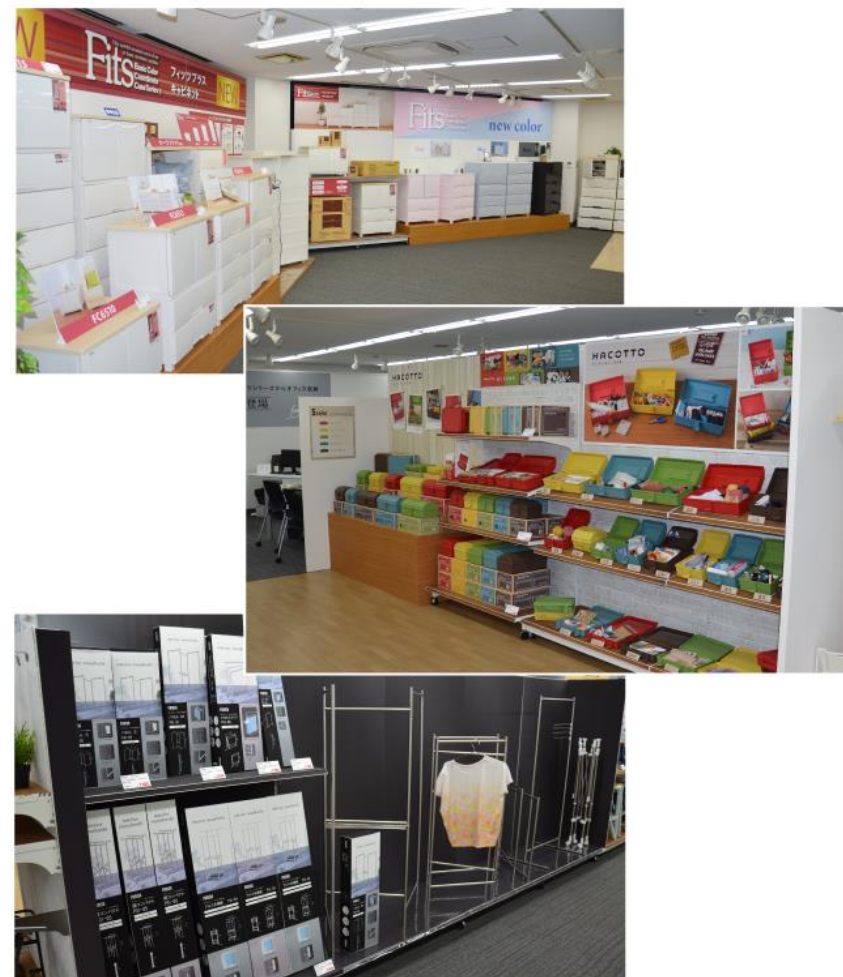
Happy life with TENMA

テーマ
challenge to change
変化への挑戦

お客様の声にお答えし、生活を愉しく快適にすることを常に発信してきました。

今回の新製品発表商談会は、ハウスイエア事業の更なる成長を図るために取り組む、新しい分野へチャレンジしていくことを示す新製品発表商談会としています。

■ 2019年に開催された新製品発表商談会



本資料に係る免責事項



本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に掲載されている将来展望と異なる場合がございます。

また、本資料が基礎とした情報の中には、決算短信及び四半期報告書の財務諸表に基づく財務情報並びに財務諸表又は計算書類に基づかない管理計数が含まれており、いずれも独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていないことをご了承ください。



天馬株式会社

証券コード: 7958